

# 令和5年度 山手中学校 学校評価

## 1 学校教育目標

自ら学び続け たくましく生きる ころ豊かで自立した生徒の育成

## 2 指導目標

- ①わかる授業を展開し、学習習慣の定着を支援する      ②自他の命を大切にする生徒の育成  
 ③相手を理解し、互いに高め合う生徒の育成      ④感謝の心を持ち社会に奉仕する生徒の育成

## 3 学校自己評価と改善の方策 A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：できていない

努力項目	評価項目	生徒 アンケート	保護者 アンケート	達成状況 (自己評価)	改善の方策
「確かな学力」の育成	基礎・基本の確実な定着	1	1	A	○授業のまとめや振り返りを行い、授業でのつまづきに対し補助資料を活用し、その解消を図る。 ○繰り返し学習等の指導方法の工夫。
	主体的な学習態度の育成	2	2.3	B	○家庭学習の手引きを活用する。 ○授業内容を理解しにくい生徒への支援を工夫する。
	ICTの効果的な活用	3		C	○生徒が学習でクロムブックを活用する機会を増やす。 ○教材アプリの積極的な活用。
開かれた学校づくり	情報発信	7	7	B	○HPやデジタル連絡ツールを活用し、情報の共有化を図る。
	地域との連携、交流の充実	8	8	B	○地域人材の活用や地域行事、活動を学校の取組と関連づける。
「豊かな心」の育成	道徳実践力を養う道徳教育の充実	4.5.9	4.5.9	A	○規範意識、差別や偏見を許さない心を家庭・地域と連携し育成する。
	信頼関係の確立	6	6	A	○援助希求的態度育成を継続していく。
	お互いを思いやる人権教育の推進	10.11	10	A	○教育活動全体を通して人権感覚を育成する。
	豊かな情操の育成	12	11.12	A	○自己有用感を高める取組を継続していく。

## 4 学校関係者評価

努力項目	関係者評価（自己評価の適切さ）	評価・意見（感想）など
「確かな学力」の育成	適切である	○授業がわからないと感じている生徒が2割いる。学業の不振によって学校に登校しづらい状況にならないような支援が必要である。 ○クロムブック活用については、焦らず、活用方法・活用内容を吟味しながら進めていってほしい。
開かれた学校づくり	適切である	○保護者の地域とのつながり方が昔とは変化してきている。今までと違った関わり方があってもよいと感じる。 ○登下校をしている生徒の様子をみると、規律正しくまじめな生徒が多いことがわかる。
「豊かな心」の育成	適切である	○生徒アンケートから他者を認めている様子がわかる。他者を認めている自分自身に対しての評価がもう少し高くてもよいと感じる。 ○善悪の判断を行い、集団生活の中で自己や他者を傷つけないことを学んでほしいと思う。